

COMMELIN

FABRIQUE DE BIJOUTERIE

A Paris depuis 1880

コムランの世界

120余年の伝統を誇るフランス製チャーム&ステンドグラスジュエリー

コムランのジュエリー制作工房はパリ・マレー地区の中心に位置し、歴史建造物に指定された19世紀の建物の中にあります。この格調高き雰囲気の中でコムランのジュエリーが制作されています。

あるファミリーの物語



19世紀はナポレオン三世の第二帝政時代に、ささやかな宝飾品細工師テオドール・コムランがパリの中心にジュエリー制作工房を構えました。

そして20世紀のはじめ、七宝をこよなく愛する孫のフィリップ・コムランが中世のガラス師から代々伝えられてきたノウハウをジュエリーに応用することに成功しました。ステンドグラスジュエリーを発明するのです。ミニチュア・ファンでもあったフィリップ・コムランは、起源を太古の時代までさかのぼり、幸運をもたらすジュエリーと言われているブルロック(「チャーム」)の制作を始めます。

20世紀の後半には、この貴重なノウハウの継承者であるマリーシモーヌ・ブーミイがこのファミリー事業を国際レベルまで発展させ、コムランは最初に日本に輸出した仏ジュエリーメーカーの中に数えられていました。その名はアジアだけでなく、アメリカにも広く浸透します。

コムラン製のジュエリーはニューヨークのメトロポリタン・ミュージアムで高く評価されます。

しかし2002年12月、コムラン社を引き継いだフィリップ・コムランの孫娘、ベランジェール・ウォルフが早世してしまったのです。ファミリー会社「コムラン」の将来が危ぶまれました。

そこで、コムラン家のいとこの一人であるイザベル・ラトゥールが、幼友達のクレール・ド・ポール・マサの助けを借り、コムラン・ファミリーのノウハウを守るために後継者となる決心をしました。こうして、イザベルとクレールの二人三脚でフィリップ・コムランが開発した技術を現代のデザインに適應させることになったのです。

コムラン製のジュエリーはフランスのほとんどの有名ジュエリーショップで取り扱っています。

同様に、パリ貨幣博物館、パリのノートル・ダム大聖堂や中世博物館、サント・シャペルをはじめ、シャルトルのノートル・ダム大聖堂、ロワール川のシャンボール城、モン・サン・ミッシェルの修道院、巡礼地ルルドなど、フランスの主な美術館・博物館や観光名所のブティックでコムラン製品を取り揃えています。

「コムラン・エッフェル塔」は年間1200個以上の売上げを誇っています。
またコムランでは、年に2000個以上のステンドグラス・メダルを制作しています。

品質保証ラベル

コムランは「生きた文化遺産企業」の品質保証ラベルを受けています。

2006年11月17日、コムランはその独自のノウハウに対して中小企業・商業・手工業担当大臣から「生きた文化遺産企業」の品質保証ラベルを授与されました。コムランは同ラベルを受けた最初の企業の中に名を連ねています。

2008年5月、コムランは仏ジュエリーメーカーの品質保証ラベルを得ました。これはジュエリーの真正さとそのトレーサビリティ(追跡可能性)を保証するだけでなく、フランスの高級品産業と切り離せない倫理観を推進させる役目もある「製造憲章」を遵守したフランスのメーカーに限って与えられるものです。



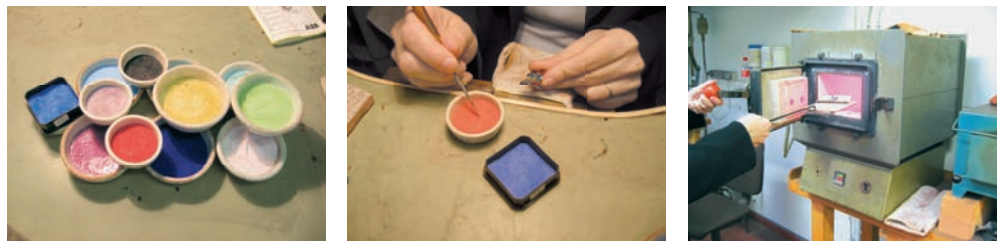
39, RUE DES FRANCS BOURGEOIS - 75004 PARIS
TEL. : +33 1 42 33 63 16 - FAX : +33 1 42 33 49 67
CONTACT@BIJOUXCOMMELIN.COM
WWW.BIJOUXCOMMELIN.COM



パリのジュエリー制作工房 コムラン

1880年創業

半透明エナメル七宝:代々伝えられた希少価値のノウハウ



はるか昔の時代から、七宝は必ず貴金属と組み合わせられていました。

今日、パリのコムランの工房では、フランス最後の七宝細工師の一人が仕事をしています。

ステンドグラスジュエリーはひとつひとつ手作りされ、丹念にエナメルがけの作業が施されて生まれます。18カラットゴールドの台に色づけしたガラス材を溶融固定させる技術です。この作業の後、各ピースは約1000度で焼かれます。こうして透明度を得たエナメルは、光の強さに応じてその色を変化させます。それぞれのピースはたったひとつしか存在しません。まったくのハンドメイドですので、同じデザインでもピースの色やサイズが若干異なってくる場合があります。

コムラン・ブルロケまたはフランス風「チャーム」

20世紀に大流行したブルロケ(「チャーム」)は、その多くが具体的な物の形をしたフィギュラティブなミニチュア・ジュエリーです。チャームの存在を知った女性たちがすぐに飛びついてプレスレットにつけ始めました。最初はひとつだけだったのですが、そのうちにテーマに応じて選んだチャームを何個かつけて個性を出すようになりました。そして、いつの間にかジュエリー本来の意味に幸運をもたらすお守りの意味が加わるようになったのです。数年ほど前から再び流行し、現在では、これまでのオーソドックスなつけ方だけではなく、ベルトや携帯電話、靴にまでつけるようになりました。

「チャーム」を専門とするコムランは、18カラットゴールドのブルロケ(「チャーム」)の仏メーカーのひとつです。コムランは各デザインの彫りの繊細さと精密さでその名が通っています。

新作展示会

プリント・オール (Print Or)ーパリ
メゾン&オブジェ・ミュゼ (Maison & Objets Musée)ーパリ
ミュージアム・エクスプレッション (Museum Expression)ーパリ
東京国際宝飾展 (IJT)ー東京
バーゼルワールドーバーゼル、スイス

職業団体

- ・ フランス宝石・真珠・宝飾品・金銀細工業連合
- ・ フランスアート制作工房
- ・ SEMA(アート産業奨励組合)

経営スタッフ

イザベル・ラトゥール
パリ政治学院卒。パリ第9大学ドーフィンヌ校にて企業経営の高等専門研究免状取得。英国宝石学協会の養成コース受講。
クレール・ド・ポールー・マサ
ナンシー商業学院およびルーブル宝飾細工師養成学校卒。



本資料はイルドフランスの協力のもとで作成されましたーフランスにて印刷